

子どもの手作り地図の紹介

わが町を100円バスで再発見

鳥取大学附属小学校 浦田文久

はじめに

3年生は社会科の学習とはじめてであらう。3年生の社会科といえば、地図。子どもたちは学校のまわりを歩いて調べたことや市内のようすを調べたことを絵地図に表すことをとても喜びながら活動する。地図記号の指導も行うが、絵地図で表すことが子どもたちの楽しさを誘うようである。

作品づくりの過程

この地図をかいた林さんは、昨年度から鳥取市内を走りはじめた100円バスに乗ってみたいと乗ったそうである。実際に乗ってみると、今まで知らなかった鳥取市街のようすが見えてきたそうである。そこで、これを地図に表してみたいと思ったことが、この一枚の地図が生まれたきっかけである。

この作品の特徴は、

- ①二つのバス路線を地図の中にうまく配置したこと
- ②写真を効果的に取り入れたこと
- ③乗り合わせた人にインタビューしたこと
- ④自分の気づきをメモしたこと

などであらう。特にインタビューでは、いくつかの項目にわたってインタビューしている。

□運転手さんにインタビュー

- ・忘れ物で多いのは？
- ・1日の利用者はどれくらいいるの？ …など

□バス利用者にインタビュー

- ・利用者の年代
- ・よく行くところは？
- ・どれくらい利用しているか？ …など

こうしたインタビューがあることで、この地図は、林さんだけの生きた地図になったのである。また、地図にまとめることで、バスの運行経路が利用者の利便性を満たしているか、市民の交通手段として役立っているかなど、今後のバス運行への課題もみえてくる地図になっているのではないかと思う。

終わりに

林さん自身が夏休みの作品として取り組んだものを基礎として、地図のもとになる道路がはっきり見えるようにしたり、色を工夫して地図が立体的になるようにしたりして作品を仕上げた。この地図を地域地図作品展に出品したところ、特に優秀な作品として評価を受けた。また、鳥取県地域研究会で、地域地図の作品の優秀作品としてプレゼンテーションを行った。地域地図は、作る過程の中で気づくことと作ったあとの地図の中で見えてくることの両面がある。林さんの作品はその両方が見える地図になっている。

「100円バスからミッケ」作成者の話

鳥取大学附属小学校4年 林のぞみ

地図をつくろうと思ったわけは、鳥取市内で100円バスをよく見るけど、どんな人が利用しているのかが知りたかったし、私も乗ってみたいからです。工夫したところは赤バスが通るコースには赤色をぬり、青バスが通るコースには青色をぬりました。有名な建物の記号をかいたり写真をはったり、私の好きな場所の絵をかいたり感想をかいたりしました。両方のバスを写して地図の中の道路に走らせて、見てもらう人にわかりやすくしました。

苦労したことは聞き取りをするとき、耳の遠いお年よりがいるかもしれないので、大きな声でゆっくりとインタビューしたことです。それから地図に色をつけて仕上げるのが大変でした。

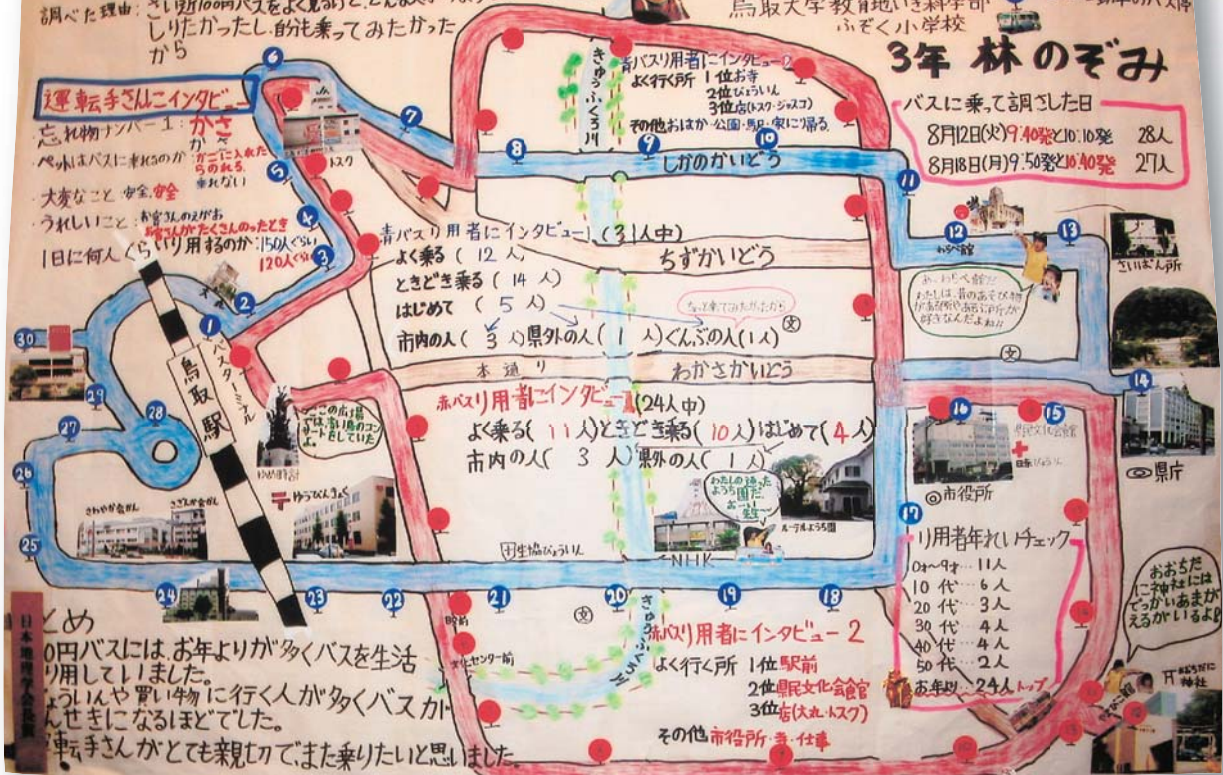
(100)円バスからミッケ

調べた理由: さしほ100円バスをよく見ると、どんな人が利用しているのかがしりたかったし、自分も乗ってみたかったから

鳥取大学 教育地いき科学部
ふぞく小学校

3年 林のぞみ

バスに乗って調べた日
8月12日(火)9:40発と10:10発 28人
8月18日(月)9:50発と10:40発 27人



とめ
100円バスには、お年よりが多くバスを生活利用していました。ようしんや、買い物に行く人が多くバスが、んせきになるほどでした。
バス手さんがとても親切で、また乗りたいと思いました。